

北名古屋市鉄道周辺まちづくり構想策定委員会

第2回 会議 議事録（要旨）

平成24年6月25日（月）

午前10時から午前11時30分まで

市役所西庁舎4階大会議室

I. 委員等の出欠

区 分		氏 名	出 欠
委員	学識経験を有する者	萩原 周	○
		村山 顕人	○
	関係団体の代表者	田中 喜作	○
		粕谷 紀光	○
		森 政信	○
		梶川 康夫	○
		加藤 武治	○
		山田 彦逸	○
		高柳 慎	○
		魚住 實	○
		加藤 茂夫	○
		辻 一敏	○
		安藤 銑吾	○※2
		舟橋 敬三	○
		大野 茂	○
		中山 金一	○
	市議会議員	山下 隆義	○
		神田 薫	○
		大野 厚	○
		長瀬 悟康	○
	行政関係職員	鈴木 秀育	○※1
		高野 昌彦	○※1
		森 令治	○※1
		日置 英治	○
オブザーバー	行政関係職員	福田 光祐	○※1

※1：本人欠席（代理者が出席）

※2：途中出席

区 分		氏 名
事務局	北名古屋市都市整備課	井上 昭人
		真田 和佳
		丹羽 信之
		柴田 貴司
	愛知県都市整備協会	川上 晃一郎
		天谷 重治
	中央コンサルタンツ(株)	増田 典生
		黒田 清吾

Ⅱ. 議題等

- 1 委員紹介
- 2 報 告
 - (1) 第1回委員会の議事要旨の報告
 - (2) 鉄道周辺まちづくりアンケート調査結果の報告
- 3 議 題
 - (1) 鉄道と道路との立体交差化の考え方について
- 4 その他

Ⅲ. 議事要旨

1 委員紹介

＜変更委員の紹介＞

事務局： ＜まちづくり構想策定委員会（資料1）の説明＞
議事録作成のための録音の承諾を得る。
変更委員について事務局より紹介。

2 報 告

- (1) 第1回委員会の議事要旨の報告

事務局： ＜第1回委員会の議事要旨（資料2）の説明＞

委員： 特に意見なし

(2) 鉄道周辺まちづくりアンケート調査結果の報告

事務局： <鉄道周辺まちづくりアンケート調査結果（資料3）の説明>

○名鉄犬山線周辺にお住まいの1,000名を対象にアンケートを実施

⇒48%の回収率があり、非常に関心が高いことが伺える。

○まちの現状について

以下の項目に問題を感じている人の割合が高い。

- ・踏切渋滞、踏切事故
- ・商店街に賑わいが無い
- ・道路の通行が危険
- ・駅前広場がなくて不便
- ・子供の遊び場や住民の憩いの場が少ない
- ・水や緑のうるおいが感じられない

○まちづくりの方向性について

以下の項目を理想像とする人の割合が高い。

- ・回遊ができる、歩きやすいまち
- ・鉄道の東西を行き来しやすいまち
- ・緑・公園が多いまち
- ・商業施設が充実したまち
- ・文化・芸術が感じられるまち

委員： 特に意見なし

3 議題

(1) について

事務局： <鉄道と道路との立体交差化の考え方（資料4）及び（別紙）の説明>

○鉄道と道路との立体交差化の考え方について

以下の3つの項目に着目して考え方を整理

- ・上位・関連計画の位置づけ
- ・現況の問題点の解消
- ・将来ビジョンとの整合性

○別紙により、「鉄道の高架化」、「道路の高架化」、「平面交差」の場合を「現状の問題点の解消」、「まちづくりにおけるメリット・デメリット」という観点により比較したところ、『鉄道の高架化』が最も望ましい。

○結論として、西春駅周辺及び徳重・名古屋芸大駅周辺では、鉄道の高架化によってより良いまちづくりの可能性が広がる。

⇒鉄道の高架化を活かしたまちづくりを推進する。

委員長： ご意見、ご質問がありましたら、発言をお願いします。

■資料全般について

委員： 今回の資料は、他の市町で検討を行っても同様の結果となるように思えます。北名古屋市としての考えを明確にして進めていただきたい。

副委員長： 今回の鉄道と道路との立体交差化の考え方の資料については、北名古屋市の特徴を踏まえた資料になっています。鉄道高架事業は大きなプロジェクトで地域の合意形成が重要になります。そのための資料として、メリット・デメリットを具体的に明示するなどの工夫がなされております。

■都市計画マスタープランとの整合性について

委員： 資料4 p.1の「徳重・名古屋芸大駅周辺は立体交差化を推進」、「西春駅周辺は立体交差化を検討」という都市計画マスタープランの位置づけと、今回の資料との整合性について説明をお願いします。また、西春駅周辺については、二重投資にならないように検討してください。

事務局： 徳重・名古屋芸大駅周辺については、地域の皆様と検討を行い、鉄道高架化について合意形成を図ることが概ねできていると考えています。西春駅周辺については、土地地区画整理事業等によりまちの整備は進めておりますが、まだ多くの課題を抱えていると考えています。そういう状況を踏まえて、西春駅周辺についても、今回、同時に検討を行っています。

■鉄道高架化について

委員： 鉄道高架を行う場合、北側はどこまでを考えていますか。

事務局： 鉄道の設計は、県が実施していますが、大山寺駅に影響させないように手前で下ろしたいと聞いています。

委員： 鉄道の地下式は、検討しましたか。

事務局： 主要地方道春日井稲沢線が鉄道高架になっており、また、東西の交流機能や市域の一体化は鉄道高架化で確保されるため、鉄道の地下式は考えていません。

委員： 県が行っている調査結果をもって、市として鉄道高架の結論を出しますか。

事務局： この策定委員会の検討結果と県の調査結果を踏まえ、市として鉄道周辺のまちづくりについて検討し、鉄道を高架化するのもしないのかを判断することになります。

■道路高架化について

委 員： 道路高架については、今後も検討を進めていく方針ですか。

事 務 局： 今回の検討結果を踏まえて立体交差化の方式を決めていくこととなります。まちづくりの 1 つの手段として鉄道高架を進めるということになれば、道路高架についての検討は行わないこととなります。

■県道名古屋豊山稲沢線（徳重・名古屋芸大駅北側の道路）について

委 員： 鉄道の高架化が望ましいことは理解できましたが、鉄道高架化に伴い、踏切が除却され、県道名古屋豊山稲沢線の自動車交通量が増えた場合、自転車や歩行者の安全性はどのように確保するのですか。

事 務 局： 県道名古屋豊山稲沢線については、一部で歩道もなく大変危険な状況にあります。まちづくりの 1 つとして道路整備を行うことで、歩道が設置され、自動車と歩行者・自転車が分離されることになり、安全性が高まると考えています。

■市道 C 6 2 号線（西春駅北側の道路）について

委 員： 西春駅すぐの踏切の西側で駐車場が多く、道路が未整備で非常に危険です。また、東に行くと道路幅員が狭くなります。鉄道高架にする場合、この道路の計画はどこまで検討するのですか。

事 務 局： 当該路線については、どの区間を拡幅していくのか今後検討していくこととなります。

■比較表における実現可能性の視点について

委 員： 連続立体交差事業は、20～30 年の事業期間が必要になると考えられます。事業費も 100 億円単位となり、極めて大規模な事業となります。

理想とするまちづくりを考えることも必要ですが、北名古屋市特有の事情も踏まえた上で、実現可能性も考慮しながら整理する必要があるかと思います。別紙の比較表において事業の実現性の視点も必要ではないでしょうか。

副委員長： 本委員会では、事業の費用便益という便益について整理することを主眼としており、北名古屋市のあるべき姿を検討するものだと思います。事業のコストについては、県で調査しており、この委員会では、費用便益比の判断は行わないものと考えています。

事 務 局： 本委員会では、費用のことは置いておいて、望ましいまちのあるべき姿を検討するものと考えています。

委 員 長： 他にご意見がないようですので、鉄道高架化を前提にこの委員会を進めていくこととしてよろしいでしょうか。

委 員： 異議なし。

4 その他

事務局： 「道路と鉄道との立体交差化の考え方」に関するパブリックコメントを7月11日（水）から8月10日（金）に実施します。

第3回目となる次回の委員会は、10月1日（月）の午前10時からの開催を予定しています。

委員長： 以上で、本日の委員会を閉会とさせていただきます。
ありがとうございました。

以 上

(参考) 委員会の様子

